

1) るい瘦 D M P 患児に対する L - M C T 投与効果 の検討

国立療養所西別府病院

城戸 美津子 浅井 和子 三吉野 産治

< 研究目的 >

筋ジス患児の体重曲線は、成長期にあたる10才～15才で平行に移りもしくは、低下する患児が多い。この体重の低下を、栄養的に防止し平均体重を維持することを目的に、7月より12月までの6ヶ月間粉乳自体の脂肪を、MCTにおきかえているL-MCT(中鎖脂肪添加粉乳)の投与を行なった。

< 方 法 >

10才から17才までの、るい瘦度20%以下、障害度Ⅱの6からⅡの9迄の患児10名に、1回30gのMCTを100ccの湯に溶き、1日2回1日量60gを、食間9時と15時に投与した。その後、体位の測定および、血清蛋白、蛋白分画、血清脂肪等の測定を行なった。

< 結 果 >

投与期間中、患児の摂取エネルギー量は、平均1,450カロリー、蛋白質55gで、プラスマイナス200カロリーのところを上下しています。喫食率は平均65%で、投与期間中特に喫食率の低下はなかったと思われます。粉乳による、ひどい下痢もみられませんでした。体重においては、前回の投与時は1～4kgの増加を示しましたが、今回は、増加したものは2～3名にとどまりました。しかし減少は、なかったようです。夏期の喫食率の低下による体重の減少は、くい止められたと思われます。次に、ADLは測定時期が、まちまちであり、全体をあわせて見ることは、できませんでした。だいたい横ばい状態、血清酵素も横ばい状態、血清脂質(総脂質、リン脂質、コレステロール、トリグリセライド)は下降して来ました。リポ蛋白、血清蛋白は、正常範囲内がほとんどで、大きな差はありませんでした。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<研究目的>

筋ジス患児の体重曲線は、成長期にあたる 10 才～15 才で平行に移行もしくは、低下する患児が多い。この体重の低下を、栄養的に防止し平均体重を維持することを目的に、7 月より 12 月までの 6 ヶ月間粉乳自体の脂肪を、MCT におきかえている L-MCT(中鎖脂肪添加粉乳)の投与を行なった。